

環境学習—釧路湿原からのおくりもの—

北海道 公立小学校教諭

1. はじめに

私たちが生活する北海道の東端は、自然環境に恵まれている。特に、釧路湿原、別寒辺牛湿原、霧多布湿原は、『小学生の地図帳（初訂版）』（以下、地図帳）p.72②「守りたい日本の自然」に記述されているように、ラムサール条約登録湿地となり、『世界の財産』として注目されている。

その中でも釧路湿原は、タンチョウやイトウなど稀少野生動物が生息しており、湿原をつくる泥炭層は、水源からの豊富な水を保水し、天然のフィルターとなって水を浄化する働きがある。かつては「谷地」と呼ばれ、利用価値のない土地だといわれていたこの土地が今では国や自治体、NGO、住民の活動でその保全が守られている。

ここでは、『釧路湿原からのおくりもの』を通して、学年の発達にともない、空間的な広がりやねらった地図帳の活用について記述していく。

2. 釧路川から釧路湿原へ

釧路湿原 からのお くりもの	4年	のみ水をつくろう 2本の釧路川を調べよう
	5年	湿原ってすごいんだ 守ろう！釧路の自然

『釧路湿原からのおくりもの』は、4年生と5年生で実施する。4年生では、釧路市の飲み水が屈斜路湖を源流としていることを調べるため、地図帳p.44～46を活用し、釧路川を遡ることにする。ここでは、川が蛇行していることや釧路湿原、天然記念物に指定されているタンチョウの存在に気づいていく。また、釧路川が下流で2本に分かれていることに気づいた子どももいたことから、釧路川の新水路工事を取り上げ、先人の働きと人々の願いについて学んできた。

5年生では、森林資源の働きを釧路湿原におきかえて学習を進めてきた。はじめに、釧路市の1日の水の使用料をグラフ化して提示する。子どもからは、「こんなに水を使ってなくなるの?」「他の地域では、水不足になっているのに、釧路は水不足で聞かないね。」などという言葉がだされる。そこで、水源林としての湿原のよさを調べるために、地図帳のp.44⑦のテーマ図「釧路湿原のなりたち」を活用した。テーマ図からは、寒冷な気候条件からよしやすいなどの植物が分解されないまま堆積し、泥炭層を形成し、保水と浄化の役割を担っていることが読み取れるのである。

また、自然を守る工夫について調べるために、地図帳のp.44⑥のテーマ図「釧路湿原のようす」を取り上げた。野生生物保護センターやラムサール条約案内板の存在から、自然を守る人々の営みについて理解していくのである。

3. おわりに

このように、地図帳を意図的に活用することで、4年生では、釧路川とその周囲をとらえ、5年生では、釧路川と釧路湿原のかかわり、自然を守る人々の営みまでをとらえるなど学びに広がりやみせた。

また、湿原が、国土保全や水資源の涵養などわたしたちの生活に必要な不可欠なものであることを理解し、環境を守ることへの意識が高まったと考えられる。



帝国書院『小学生の地図帳（初訂版）』p.44